

# 悪いドライバーの見分け方

## 試用期間を設ける

伸 悪いドライバーをつくらない

これまで500人以上の事故を起こしたドライバーに直接指導してきた経験を持つ伸(東京都中央区)の森英昭社長は、「論外レベルの悪いドライバーは分かるが、良いドライバーは仕事をさせてみないと分からないというのが現実」と語る。

悪いドライバーの例では、▽面接時に免許証を携帯していない▽事故・違反履歴が多い▽あいさつがでない▽連絡なく遅刻する▽人の話を聞かない…など。「これらに該当しなければ、とりあえず試用期間を設けて採用することを勧める。」

森社長は、「ほとんどの人が、入社時は良いドライバーになれる素質を持っている」と指摘。「前職では悪いドライバーだったかもしれないが、転職して心機一転、頑張ろうと思っている人も多い」とする。

では、なぜ悪いドライバーになってしまうのか。同社長は注意すべき次の4項目を挙げる。

▽退職予定者が引き継ぎをしている(会社に不満を持って退職するドライバーはよくない)▽きこえを言わない(▽きちんとした入社時教育を行っていない(良いドライバーとは、どんなドライバーなのかを知らない、伝えていない)▽何でも「規則だから」で済ます上司がいる(その規則がなぜできたか、何のために必要なかをきちんと説明して納得させていない)で、上司を信頼しなくなる)▽悪いドライバーを放置している(良いドライバーよりも影響力が大きい)

「つまり、悪いドライバーをつくらないようにすれば、良いドライバーだらけの会社になるはず」とする。(大西友洋)



森社長